

平成 29 年度 第 3 回「伊勢志摩定住自立圏共生学」運営会議議事録

【日 時】平成 29 年 11 月 9 日（木）18 時～19 時 01 分

【場 所】皇學館大学 9 号館 1 階 小会議室

【出席者】（伊勢市）辻企画調整課長（鳥羽市）山本企画経営室長（度会町）中井政策調整課長（南伊勢町）

柳原宏二行政経営課長（明和町）朝倉防災企画課企画担当係長

（三重銀総研）伊藤専務取締役

（大学）齋藤教授、筒井教授、笠原教授、板井准教授、近藤准教授、千田准教授、池山助教、

梅川地域連携推進室員

*欠席 （志摩市）澤村総合政策課長（玉城町）林総合戦略課長（大紀町）田中企画調整課長

（大学）櫻井教授、木村企画部長、森企画部地域連携推進室課長、

【議 題】

1. 『伊勢志摩定住自立圏共生学』教育プログラムの行政チャンネルを利用した配信について

齋藤教授より説明がなされた。

- 当初、JMBOOC でのネット配信利用を計画していたが、JMBOOC の経費が補助金対象に認められないことから、行政チャンネルを利用した配信ができないかということになったもの。
- H29 年度は試行版を制作
 - ①春学期分：玉城町 （9月6日収録、デモ版完成済み）
 - ②秋学期分：伊勢市
 - ③伊勢志摩定住自立圏特別番組：伊勢市様予算で制作予定
- 他の市町様の取組を取上げた番組をそれぞれの自治体行政チャンネルで放映していただくことは可能かどうかについて以前お伺いしたところ、そう難しくはないだろうとのお返事をいただいているが、もし放映をしても差し支えないということであれば、ぜひ行政チャンネルで放映をしていただけるとありがたい。番組の内容にもよるかと思われるので、内容を確認いただき、ご協力、ご検討の程お願いしたい。
- あわせて、来年度制作費として8万円程度（今年度実績）を予算としてつけていただき、それぞれの市町様のテーマに沿った番組を制作していただけるとありがたい。この点についてもご検討いただけるようお願い申し上げます。

※玉城町デモ版視聴 （14 分程度）

審議の結果、異議なく了承された。

2. 学修成果評価アンケート集計結果の評価目標数値の設定について

齋藤教授より配布資料をもとに説明がなされた。

- H28 年度の外部評価委員会において、外部評価委員からアンケートの数値目標を設定していないのではないかと指摘を受けたもので、今回目標値を設定したい。

【各学修・教育目標の目標値（案）】 科目Ⅰ～Ⅳ共通

〔学修・教育目標 A・B〕 認知的領域：知識・理解

「現況、課題を他者に説明できるか」の項目→「説明できる」を10%に

〔学修・教育目標C・F〕情意的領域：関心・意欲・学修姿勢

「話し合いの場での傾聴、建設的ディスカッション等」の項目

→「毎回できた、ほぼできた」を70%に

〔学修・教育目標D・E・G〕技能領域：スキル

・科目ⅠⅡ

「地方創生の取組を評価し、その手法および技術について説明できるようになったか」の項目

→「8市町について1つはある」、「一部の市町についてある」を合わせて70%に

・科目ⅢⅣ

「地域産業振興や経営管理等の取組を評価し、その手法および技術について説明できるようになったか」の項目→「複数ある」、「一つはある」を合わせて70%に

審議の結果、異議なく了承された。

3. 平成30年度「履修証明プログラム」のプログラム名称について

齋藤教授より説明がなされた。

- ・各学科で履修証明プログラムを設定。120時間受講することで履修証明を発行するもの。COCでもこの履修証明プログラムを設定することから、プログラム名称についてお諮りしたい。

プログラム名称（第一案）：「伊勢志摩で共に暮らす」

※シンポジウムテーマと重ね合わせたもの。他案として「伊勢志摩で暮らす」「伊勢志摩でくらす」「伊勢志摩で共に生きる」「伊勢志摩で生きる」など

審議の結果、第一案で了承。

- ・本来、履修証明プログラムをH29年度に実施するとなっていたものを失念しており、H30年度から実施することとなった。ご了承の程、お願いいたします。

4. 平成31年度カリキュラムについて

齋藤教授より説明がなされた。

- ・教職課程再課程認定がH31年度カリキュラムから行われることから、それに備える形で、全学部のカリキュラムを見直しているところである。COC事業もH30年度で終了する為、H31年度からの事業継承を考え、H31年度以降の体制についてどのようにするか来年1年をかけて、授業の組み方、科目名等を考えていきたい。そのような動きがあることを今回お諮りしておきたい。

(Q1) 科目名Ⅰ、Ⅱではなく、授業内容を表した科目名としてはいかがか？履修時わかりにくくはないのか？

(A1) 似通った科目名となっているが、説明書きをつけているので学生たちは理解していると思う。

科目Ⅲ・Ⅳについて。現在、開講学期を入れ替えて実施しているが（科目Ⅲ：秋学期、科目Ⅳ：春学期）、授業内容の入れ替え（科目Ⅲ：6次産業化実践論、科目Ⅳ：1,2,3次産業基本論）へと

改善したいと考えている。また、ご意見あれば、お願いしたい。

審議の結果、異議なく了解された。

5. その他

特になし。

【報告】

1. 第3回本事業取組内容公表シンポジウム

齋藤教授より配布資料をもとに説明および報告がなされた。

- ・9月10日に開催。昨年度の反省から、第3部パネル交流会にたくさんの方々に残っていただけるように改善を図ったところ、今回は交流会に参加していただける方々も多く、無事終了することができた。

異議なく了解された。

2. 平成29年度『伊勢志摩定住自立圏共生学』Ⅰ、Ⅳ学修成果評価アンケート集計結果

齋藤教授より配布資料をもとに説明および報告がなされた。

- ・春学期開講科目である科目Ⅰ、Ⅳで実施。

科目Ⅰ

〔知識・理解〕「説明できる」と回答した者が年々増加。

〔意欲・関心・学修姿勢〕

話し合いの場での傾聴や地域インターンシップ、CLL活動への意欲関心を示す者が当初年度と比べると大幅に増加。CLL活動も順調に推移しており、授業を受けた者の中から実際の活動へ参加していきこうという流れにつながっているものと捉えている。

〔スキル〕スキルが身についたと回答した者が年々増加。

科目Ⅳ

〔知識・理解〕

知識、理解が高まった分野→マーケティング手法 40%、六次産業化 23%。この事業の目標としている実践的なデータや事例に基づいた話をしていただき、それがまた受講生にとっても興味関心が高いことになっていると捉えている。

〔意欲・関心・学修姿勢〕

積極性を示しているのは76~84%。地域インターンシップやCLL活動のような実際の活動に参加している者が科目Ⅰに比べると10ポイントほど高い。より実践的な部分での効果が認められると捉えている。

〔スキル〕

スキルが身についたと回答した者 89%、自主的に調べることが多かったと回答した者 15%→自己評価が高い。この点、今後、学生たちに自主的な学びについて取り組むよう進めていきたいと考

えている。

異議なく了解された。

3. 平成 29 年度 CLL 活動進捗状況

齋藤教授より配布資料をもとに説明および報告がなされた。

- ・今年度は25活動（新規12活動、継続13活動）、参加人数延べ225名。（11月9日時点）
- ・学生を巻き込んだ取組ができないかとのオファーも多数いただいております、この秋学期に向けてさらに件数が増えていく見込みである。

異議なく了解された。

4. COC+「地方創生人材データバンク」調査に関して

齋藤教授、笠原教授より配布資料をもとに説明および報告がなされた。

（笠原教授補足説明）

- ・運用面でわかりにくい部分もあり、県、三重大学においても登録が進んでいない状況。
- ・各大学からの講座、講演依頼が来て、ご都合が合えば出講いただく形となる。登録したからといって必ず出講義務が生じるものではない。
- ・現場の第一線で活躍されている自治体職員、地域おこし協力隊、NPOで活動されている方々にぜひご登録をお願いいたします。また、シンクタンクの方々にもぜひ登録をお願いいたします。
- ・地域で活躍されている方をご紹介いただければ、登録への働きかけを行いたいと考えている。

（Q1）現在の登録数は？ 市町からの登録は？

（A1）現在10名。津市長、名張市長のみである。

（Q2）報償等は？

（A2）講演等を依頼した大学の規程による。一律ではない。

異議なく了解された。

5. その他

①平成 29 年度自己点検・評価および外部評価委員会

- ・H30年3月31日（土）を予定。年度末で難しいかと思われるが、ご予定をお願い申し上げます。

②その他

- ・配布資料「108smile」について

（板井准教授）

鳥羽市市民交流室の事業で、鳥羽市内の市民活動・ボランティア団体を紹介した今年度分の冊子。今

後、取材等で学生を絡めた形に発展できればと考えている。

- 三重大学との合同シンポジウムについて

(板井准教授)

H29年12月17日(日) 鳥羽商工会議所3Fかもめホールにて開催予定。

テーマ:「地方創生と大学の役割を伊勢志摩から考える」

異議なく了解された。

*次回日程

次回(H29年度 第4回)運営会議は、

平成30年2月15日(木)18時～ 皇學館大学 9号館1F(911)にて開催されることが確認された。

予備日12月14日は不開催

以上